
NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.12

国立国会図書館
月報



特別企画 鉄道 150 年 国立国会図書館の鉄道関係資料

国立国会図書館資料にみる鉄道関係資料—鉄道を調べる— 三木 理史

読書が変わる？ 国立国会図書館の新たなサービス“個人送信” Q&A

あの人の蔵書 中西文庫

740 号 2022 年 12 月

国立国会図書館 月報

NO. 740
DECEMBER 2022

CONTENTS

- | | | | |
|----|---------------------------------------|----|--|
| 26 | あの人の蔵書 第7回 中西文庫 | 1 | 『処世秘訣集』
— 90年前のライフハックは、今でも通用する? —
今月の二冊 国立国会図書館の蔵書から |
| 20 | 読書が変わる? 国立国会図書館の新たなサービス
『個人送信』 Q&A | 5 | 特別企画 鉄道150年
国立国会図書館の鉄道関係資料 |
| 18 | ミニ電子展示「本の万華鏡」第32回
鉄道が変えたコト・モノ | 6 | 国立国会図書館資料にみる鉄道関係資料
— 鉄道を調べる —
三木 理史 |
| 16 | 鉄道150年を知る本 | 19 | 館内スコープ
分岐点にて |
| 31 | 年間索引 | 25 | 本屋にない本
『竹紙の現在と文化財修理』 |
| 30 | NDL TOPICS | 30 | 年間索引 |



表紙：
「高輪牛町朧月景」
小林清親 画 福田熊次郎 明治 12 (1879) 年
1 枚 23.3 × 34.7cm (『清親畫帖』所収)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2605147/38>

『処世秘訣集』

—90年前のライフハックは、今でも通用する？—

児玉安奈



(上) 本書の挿絵のひとつ。どのような「処世秘訣」の挿絵でしょうか。次のページに答えがあります。

(左) 表紙。鍵のイラストは「処世の鍵」を表現しているように見えます。

処世秘訣集

大日本雄弁会講談社 昭和10 186p ; 15cm

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1111767> (モノクロ画像)

——頭の中が整理された人は机の中もきちんと整理され、必要なものはちゃんと一定の場所にあるものである。

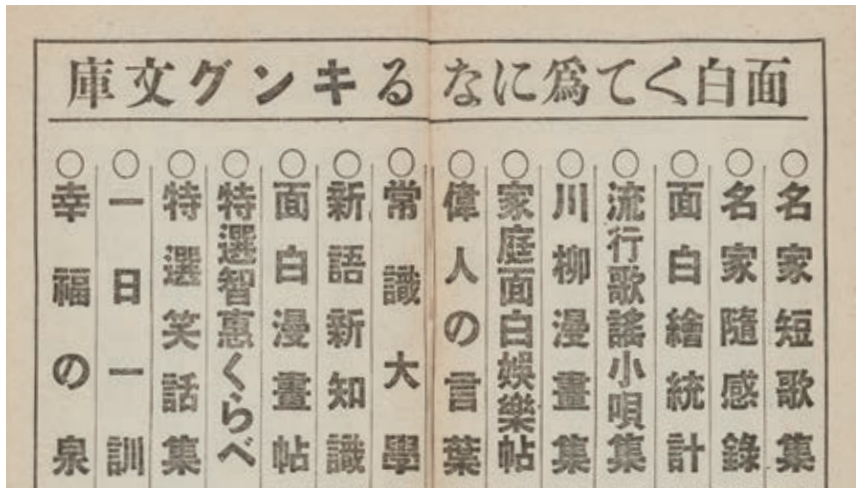
——上司や先輩の前で、外国語、専門語、流行語等を使いたがるのは、かえってその人の浅薄さを示しているに過ぎない。

——ゴミのたまる家に金はたまらない。貧乏神は、まず台所やトイレをのぞいてから入ってくる。

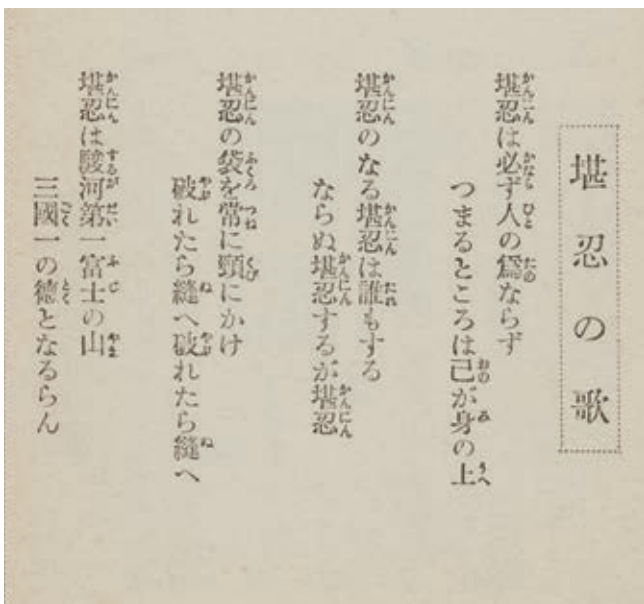
ぎくりとした方もいるのではないのでしょうか？

実はこれらは、およそ90年前、昭和10(1935)年刊行の『処世秘訣集』の一節です。一世紀近くの時が経っても、通用するアドバイスだと思いませんか。

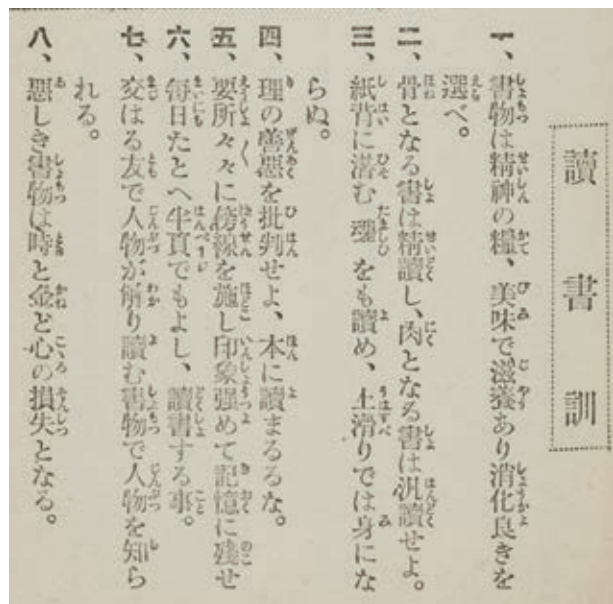
スキル向上、良好な人間関係、心身ともに健康に過ごすための生活習慣などへのヒントは、仕事術や生活の知恵などと呼ばれます。今ではライフハックという言葉がイメージされる方も多いかもしれません。このようなヒントをまとめた本は、様々なジャンルで出版されており、国立国会図書館でも多くの本を所蔵しています。今回ご紹介する『処世秘訣集』も同様のテーマの本で、数々の「処世秘訣」を紹介しています。



『キング』は大正13(1924)年に創刊した大衆雑誌で、昭和2(1927)年1月号で日本の雑誌界初の発行部数100万部以上を記録するなど、非常に人気のある雑誌でした。キング文庫の刊行は昭和15(1940)年まで続き、計99冊刊行されました。残念ながら、キング文庫の当館の所蔵はごくわずかですが、広告からそのラインナップを見ることができます。



わずかですが、短歌が並んでいるテーマもあります。



「読書訓」。端的なフレーズが印象に残ります。読書については、「上役に引立てられる秘訣」においても「向上に燃ゆる読書家は、誰にも尊敬される。(略)良書は成功のモーターである。」と記載があります。前ページのイラストは、その「処世秘訣」の挿絵です。

『処世秘訣集』は、大日本雄弁会講談社(現:講談社)発行の「キング文庫」のうちの1冊です。キング文庫は、同社の人気雑誌『キング』が母体となっています。

そのはじめは『幸福の泉』という、『キング』昭和7(1932)年2月号の「一万人大懸賞」で9,481名に贈呈された、『キング』の過去の小記事を集めた200頁の小冊子です。『幸福の泉』が好評を呼んだことで、毎号の懸賞で同様の小冊子を賞品として用意することになりました。続けているうちに、「懸賞以外で一般読者にも売ってほしい」という声が多く寄せられたため、翌年の小冊子が12冊そろったタイミングで、一冊20銭という定価を付け、キング文庫として販売することにしました。今回紹介する『処世秘訣集』も、昭和10(1935)年2月号の懸賞として1万名に贈呈されるとともに、キング文庫として刊行されました。

さて、本書の内容を見ていきましょう。目次を見ると、60ものテーマが並んでいます。「ニコニコ生活法」「受験の秘訣」「人に好かれる秘訣」「立身出世の要訣」……などなど、現代でも興味を引かれそうなものばかりです。それぞれのテーマについて、概ね10から30までの「処世秘訣」が紹介されています。



「処世秘訣」の内容は、「日常生活訓」の「一、朝は爽やかに、勢よく離床すべし。」「二、其の日の仕事は其の日に片づける事。」などのようなごくごく基本的なものから、「読書訓」の「一、書物は精神の糧、美味で滋養あり消化良きを選べ。」「二、骨となる書は精読し、肉となる書は汎読せよ。」などのようなはつとさせられるようなものまで、様々です。また、いくつかのテーマの「処世秘訣」には、一つひとつにユーモラスな挿絵や少々鋭い解説がついている点も本書の魅力です。2点ほど、ご覧いただきましょう。

「就職の秘訣」

二六、長所を問はれて誇大に吹聴すること勿れ。短所を問はれて殊更に隠蔽すること勿れ。

画像1の男性は「長所」を両手いっぱい引き伸ばしています。「就職の秘訣」は、本書のなかで最も多い30もの秘訣が紹介されているテーマのひとつで、読者の関心が大きいテーマであったことがうかがえます。「一、履歴書は自己の姿なり。その用式、その文字に就ては慎重に注意して書くべし。」「二六、幾つかの会社や銀行を同時に志望してゐるやうな風を絶対に見せることなかれ。」は、現代の就職活動のエントリーシートや面接での駆け引きを彷彿とさせます。

「金持になる秘訣」

一八、不時の収入は非常時の支出のために貯へよ、握らぬ金は当にすべからず。

画像2のポーターを手にした男性は、お酒に「ポーターも入ったんだし、少しくらいいいでしょう」と誘惑されているように見えます。ポーターが入って、浮かれたり、お財布の紐がゆるくなったりするのは、今も昔も変わらないようです。解説には「思はぬ金が入ると、直ぐ何か買ひたがり、半年先のポーターをあてに掛買をするといった風の人があるが、何れも金持に縁の遠い気の毒な人である。」となかなか辛辣なことが書かれており、身につまされます。

こうやって一冊の本から、当時の人々の関心や心がけなどが垣間見えたり、共感できたりすることはおもしろいですね。100年後の人々も、今の本を見て同じように思うかもしれません。

『処世秘訣集』にはまだまだたくさんさんの「処世秘訣」が紹介されており、すべてをご紹介できないのが残念です。本書は国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧することができます。読んでみると、みなさんの生活にも役立つヒントが見つかるかもしれません。

まだまだ面白い！ 処世秘訣集

本文でご紹介できなかった「処世秘訣」を、イラストを中心に紹介します。

～福の神と貧乏神～

Aの左側にいるのが福の神、B、Cの右側にいるのが貧乏神です。Aは、女性が台所をきれいにせず化粧ばかりしていることを、釜が福の神に告げ口している様子です。「虚栄とだらしのないのは福の神の最もいやがるところ」なのです。

Bでは、貧乏神を呼び寄せるのは愚痴・不平・叱言であることを、Cでは、貧乏神を寄せ付けないためには、健康な肉体が何より大切であることを表現しています。

A：「金持になる秘訣」より

B、C：「一家和楽繁栄の秘訣」より



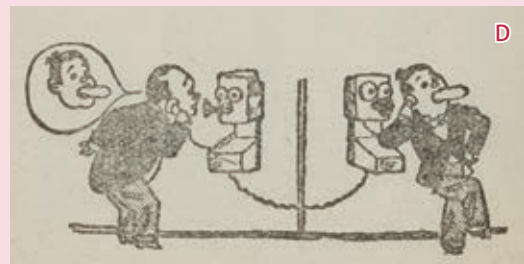
『処世秘訣集』の挿絵では、たびたび「もの」が擬人化されています。

Eの男性に言い寄っているのは、左から大見切り格安品、投げ売り品、棚ざらい品です。安売りするために作った粗悪品でお金を無駄にしないように、という教えになっています。

Fではお金を「おあし」というのになぞらえ、お金に足が生えています。お金は逃げ出したがるので、預金することで足止めしましょう、とすすめています。

E：「買物の秘訣」より

F：「一家和楽繁栄の秘訣」より



Dでは、右の男性が煙草を吸いながら電話していることが相手に伝わっています。電話は声だけが聞こえるものではなく、態度や人柄なども伝わる、ということを表しています。

「外交・交渉の秘訣」より

○参考文献 ※<>内は当館請求記号

講談社社史編纂室 編纂『年表・資料講談社の100年』講談社 2010 <UE57-J44>

講談社社史編纂委員会 編『講談社の90年』講談社 2001 <UE57-H7>

講談社八十年史編纂委員会 編『講談社の80年 1909-1989』講談社 1990 <UE57-E25>

講談社社史編纂委員会 編『講談社の歩んだ五十年 昭和編』講談社 1959 <023.067-Ko491k>

『キング』大日本雄弁会講談社 1925-1943 <雑52-27>

※引用の旧字は新字に、旧仮名づかいはママとし、一部の漢字にルビをふりました。



「東京名所之内 新橋ステーション蒸気車鉄道圖」廣重（歌川広重
（3世））画 萬屋孫兵衛，〔明治年間〕錦絵（38×24 cm）
3枚続 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542807>

特別企画 鉄道 150 年

国立国会図書館の

鉄道 関係資料

鉄道に関する本やサイトはまさに汗
牛充棟ではないでしょうか。

鉄道創業後一五〇年間の歴史にか
わる本を数え上げれば、国立国会図
書館にも膨大な蔵書があります。

といつても一体何があるのか？

という方のために、鉄道史に造詣の
深い三木理史先生（奈良大学文学部教
授）による鉄道の歴史書、統計書、時
刻表などについての誌上ツアーをご用
意しました。

調査の糸口になりそうな本やサイ
ト、そして新しく当館が公開したオン
ライン展示「鉄道が変えたコト・モノ」
（本年10月14日公開）もあわせてご紹介
します！

国立国会図書館資料にみる

鉄道関係資料

― 鉄道を調べる ―

三木理史



「東海名所改正道中記五 蒸気の待合 神奈川」廣重（歌川広重（3世））画 山清，明治8 [1875] 錦絵（35×24 cm）1枚（『改正五十三驛』所収）
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9369213>

三木 理史 氏（奈良大学文学部教授）

専門は人文地理学。著書に『地域交通体系と局地鉄道―その史的展開』（日本経済評論社、2000年）、『移住型植民地樺太の形成』（塙書房、2012年）などがある。「統計書をどのように利用するか」「地図・写真をどのように利用するか」といった具体的な切り口から専門的情報につながる調査手法を整理した『近・現代交通史調査ハンドブック』（古今書院、2004年）も広く活用されている。

二〇二二年は、日本で初の鉄道が新橋―横浜間に開業してから一五〇年にあたり、また近年は鉄道への社会的関心が高く、記念イベントも多数行われています。鉄道ファンを意味する「〇〇鉄」の豊富なバリエーション一つをとっても、鉄道に関わる資料は経営から技術まで幅広く、それに応じて専門的な記録から旅行に使う時刻表や地図まで多様な媒体に跨がり、関連出版物も多彩な内容に拡大してきました。

国立国会図書館（以下、国会図書館）の源流である文部省書籍館の設立も一八七二年ですから、奇しくも日本の国会図書館と鉄道は同期生になるのかもしれないが、所管部局の相違もあつてか、鉄道創業に関わる記録類で

国会図書館に残るものは多くありません。しかし、その後一五〇年間に鉄道の紡いできた歴史に関わる国会図書館の蔵書群には目を見張るものがあります。いまNDLオンラインでキーワード「鉄道」でのヒットは約一六万件に及びますし、インターネット公開分のみでも三万件を超えます（二〇二二年八月現在）。その豊富さたるや、本稿に限られた誌面で紹介しきれものでも、また筆者がもちろん全てを熟知しているわけでもありません。

そこで、本稿では、それらの中から筆者が目をとめたもの、あるいは興味を感じたものの一部を紙幅の許す限りご紹介してみましよう。

(上) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2127152>
 (中) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2127166>
 (下) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2127183>
 (全てモノクロ画像)
 URLは国立国会図書館デジタルコレクションURL

『日本鉄道史』 上・中・下篇
 鉄道省 編・刊 1921年

第二章 鐵道ノ開始
 五三

明治五年二月二十六日鐵道寮ヲ沙留停車場本屋ニ移シ八月晦日更ニ英坂ニ新築シタル工部省廳舎内ニ之ヲ移ス本章第五節第一參照是ヨリ先五月二十七日沙留停車場ヲ新橋ト改稱ス

立派四工事
 是年七月合欄柱植立及鐵條敷設ヲ了シ九月二十九日新橋橫濱間工事全ク落成ス其距離十八哩ニシテ中間停車場四箇所家屋四十二棟橋梁大小二十二箇所皆木桁ヲ用ユ清橋二十四箇所石木製溝橋七十九箇所汽車回臺四箇所水溜四箇所鐵條敷長ヲ一萬七千八百餘トス線路ハ單線ニシテ鐵條ハ兩頭ノモノヲ用キ其一碼ノ重量六十封度ニシテ木製枕材ヲ敷設ス又全線ヲ通シテ煉瓦ヲ用キ專ラ石材ヲ用キタリ工事ノ設計及監督ハ英國人ニ當リ就中建築副役モハルト「デューライング」二人殊ニ功アリ新橋橫濱間興業費ハ金二百七十二萬五千七百七十六圓興業コリ明治八年六月ニ至ル初メ後明治十四年五月本橋ヲ鐵橋ニ改架シ同時ニ全線副線敷設ヲ竣セリ

第一 開通

新橋橫濱間鐵道工事ハ明治五年ヲ以テ竣工ノ見込ナルニ由リ運輸開始ノ爲四

年七月運輸場ヲ橫濱ニ置キ諸般ノ準備ヲ爲サレタリ本節第三參照

明治五年正月十三日工部省ハ鐵道寮ノ上申ニ基キ太政官ニ品川橫濱間假貨錢トシテ乘客ハ上等一圓五十錢中等一圓下等五十錢四歲以上十二歲以下ノ小兒ハ半額トシ手廻荷物ハ一人六十斤ヲ限リ三十斤マテ二十五錢六十斤マテ五十錢ト爲サントテ稟議シタリ而シテ太政官之ヲ關係寮者ハ諮詢シタルニ驛巡察ノ意見ハ東京日本橋以北ヨリ橫濱マテ人力車賃ハ二分二厘蒸氣船賃ハ一分一朱ナルモ尚ホ且ツ之ヲ高價ト爲シ或ハ多行ノ勞ニ甘シシ或ハ小船ノ難キハ依ルモノ往來行人ノ半ニ過タ荷物モ七貫目ヲ負擔スル人足一人ノ貨錢三貫五百文船ニ依レハ運ニ低廉ナルヲ以テ鐵道乘客運賃ハ上等一圓中等七十五錢下等二十五錢十二歲以下ノ小兒ハ上等七十五錢中等四十錢下等二十錢トシ荷物ハ二十斤マテ十錢四十斤マテ二十錢六十斤マテ三十錢トモヘント謂ヒ大藏省亦之ト意見ヲ同クセリ然レトモ鐵道寮ハ設備未タ充分ナラズシテ多數ノ乘客ニ應ジ難クハ賃金ノ低下ハ之ヲ後日ニ譲リ差向上申ノ如ク發布セラレシコトヲ請ヒ三月五日之カ允可ヲ得タリ

是年二月二十八日太政官布告ヲ以テ鐵道規則ヲ公布セラレ五月四日更ニ改正

第二章 鐵道ノ開始
 五三

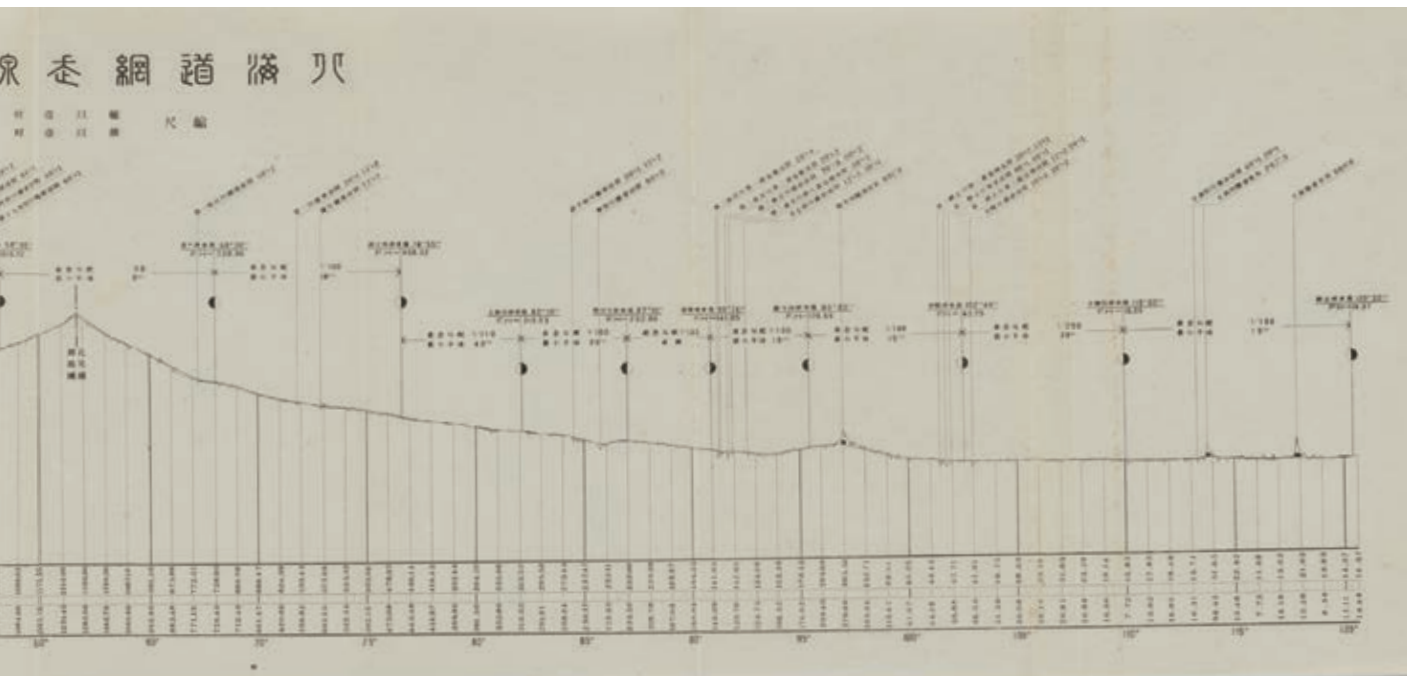
上篇より。新橋・横浜間の開業のことが記されている。

鉄道省（現国土交通省の前身官庁の一つ）が鉄道創業五〇年（一九二二年）を記念して編さんした本格的な日本の鉄道公史の先駆で、上・中・下の全三篇から成ります。その後創業一〇〇年（一九七二年）を機に日本国有鉄道（以下、国有の鉄道を「国鉄」と略す）は『日本国有鉄道百年史』（全一四巻、ほかに通史、年表、索引・便覧巻等）を編さんしましたが、当時の国鉄の年史という立場を採ったためか、民営鉄道（以下、民鉄）に関する叙述は国鉄と関係をもつ範囲に限定されています。

それに対して『日本鉄道史』は、民鉄にも相当な頁を割り、当時残存していた原典に当たる正攻法で編さんしたため、その後紛失によって現在は参照困難な関連史料の内容を知ることできます。鉄道一五〇年の記念年に因んで、上の写真で新橋―横浜間開業に関わる頁をご覧になってみてください。

『網走線建設概要』

鉄道院北海道建設事務所 編・刊 1912年



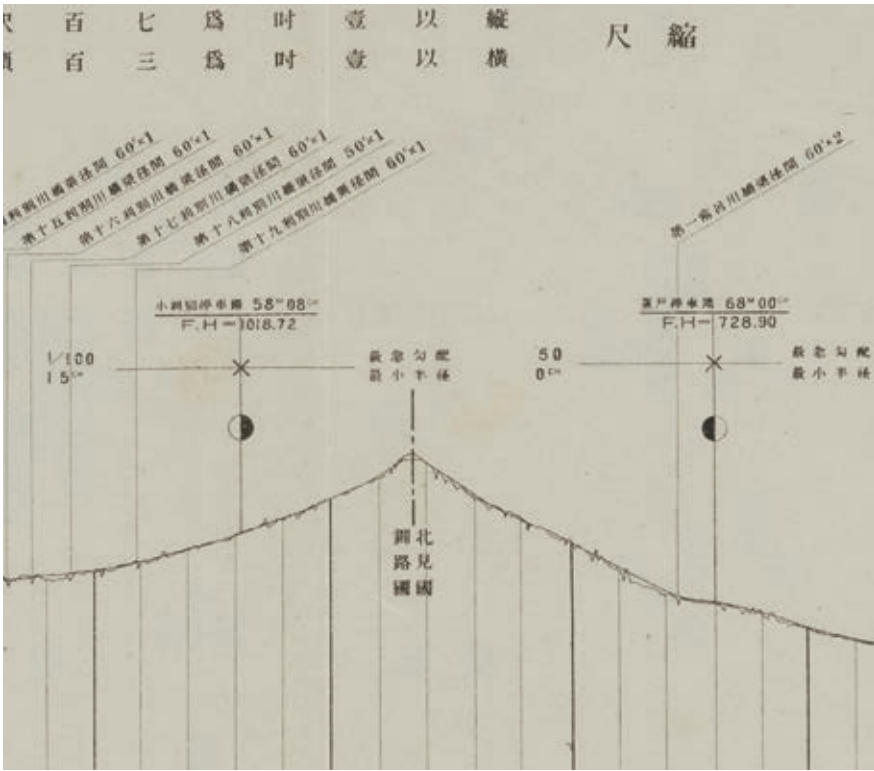
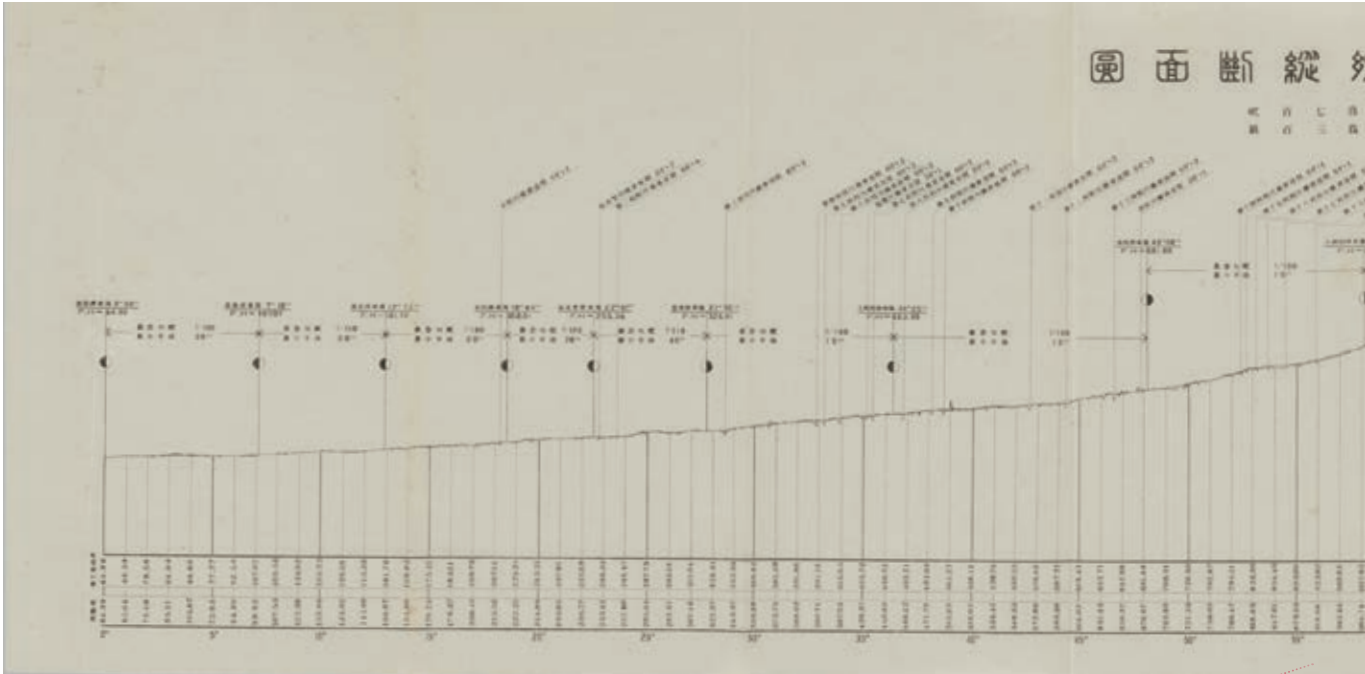
北海道網走線縦断面図

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/949825> (モノクロ画像)



一九〇六〜〇七年の「鉄道国有化」によって国鉄の組織も一挙に大規模化し、〇八年に統括組織として鉄道院を設置しました。鉄道業界は経営と技術に大別できますが、その技術部局を中心に以後主要な新線の完成時に工事記録を刊行するようになりました。路線の起源や工事概況のみならず、断面図などの図版類、各停車場の竣工時の写真などを収録し、それらは沿線地域の貴重な記録にもなっています。

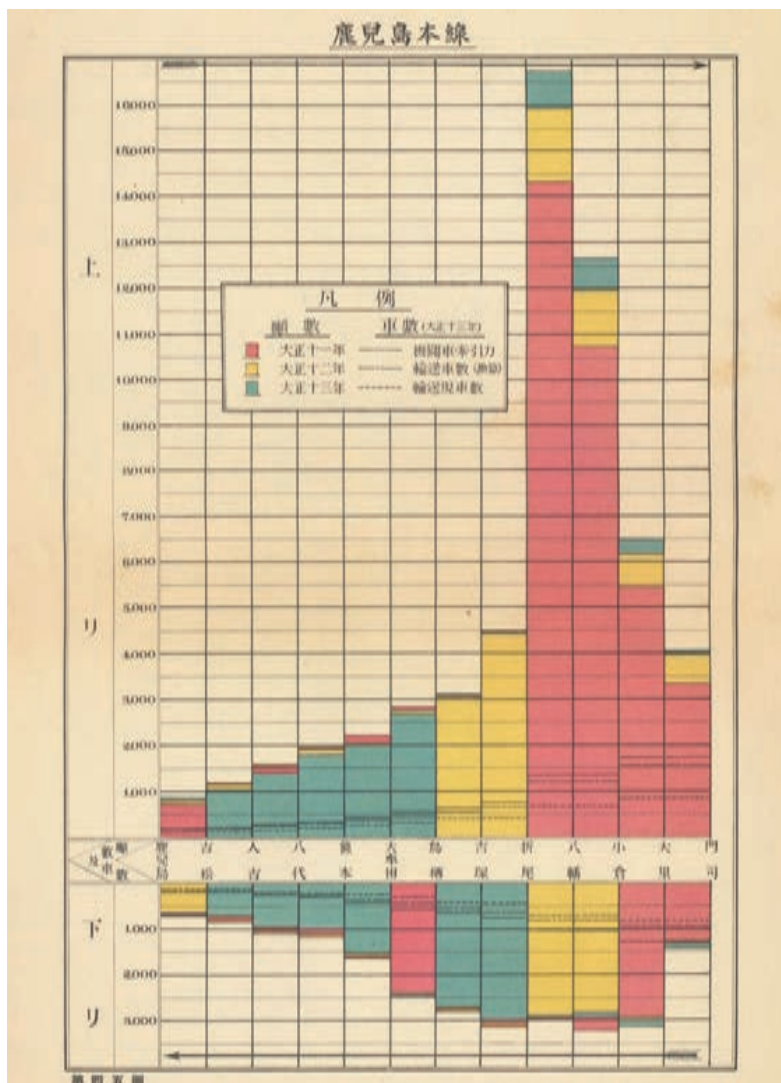
上に掲載の図に見られるように、網走線は、現在の石北本線北見―網走間と、池北線（のち北海道ちほく高原鉄道、現廃止）を併せた路線で、一九三二年の現石北本線経路の完成まで道央から網走への主要経路となっていました。その断面図からは小利別―置戸間が分水嶺であることがわかります。



拡大した中央部分。ちょうど小利別一置戸駅が分水嶺となっている。

『貨物運輸統計図表』 鉄道省運輸局 1925年

<https://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/1906439>



鹿児島本線の貨物輸送量

鉄道省は、その前身の内閣鉄道局時代から『鉄道局年報』を刊行し、早くから「鉄道統計図表」など統計の刊行にも着手していました。長期に蓄積された年報、統計のおかげで、他の陸海空の交通機関に比べて鉄道の歴史は実証的な研究が格段に容易です。

一方で統計は無味乾燥な数字の羅列を逃れませんが、一時期ながらそれから作図したカラフルな図表を別仕立てで刊行していた時期がありました。上の統計は鹿児島本線の貨物輸送量を区間別にグラフ化したもので、小倉―折尾間の上り列車（同線は門司〔現門司港〕起点のため門司方面行き）のトン数が突出しています。これは折尾駅で接続していた筑豊本線から流入した筑豊炭を、八幡―小倉間にあった北九州の工業地帯に運んでいたことを示すものでしょう。ちなみに当時の鹿児島本線はJR時代の同線経路とは異なり、熊本県以南が現在の肥薩線経路であることも人吉や吉松などの駅名から知ることができます。

『九州線汽車時間表』

第 80 号

鉄道省 編・刊 1926 年

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/914814> (モノクロ画像)



話題が九州に飛んだので、そのまま
 同地の話題をつづけましょう。数ある
 鉄道関係の刊行物中で、隠れたベスト
 セラーの異名をとる「時刻表」には三
 宅俊彦『時刻表百年のあゆみ』（成山
 堂書店、一九九六年）などの研究書も
 あり、明治期から刊行が継続し、また
 それらの主要なものは復刻されて入手
 も容易なことを知ることができます。
 時刻検索アプリ盛行の昨今、紙媒体
 の時刻表の配布終了も絶えませんが、
 北海道などで地方版時刻表の刊行、販
 売が辛うじて継続しています。そうし
 た北海道の地方版時刻表の創刊は先の

三宅著によれば一九二三年五月とされ
 ていますから、その九州版にあたるこ
 の書も地方版の草創期のものと考えら
 れそうです。現行の縦配列の誌面を見
 慣れた身には、同時期の全国版の『汽
 車汽船旅行案内』にも共通する横配列
 の誌面は幾度見ても馴染めません。他
 方接続する民鉄（島原鉄道）の時刻表
 が組み込まれている点は、現行の巻末
 に民鉄を別にまとめた編集より見やす
 くもあります。また書肆である大阪
 駈々堂旅行案内内部にも惹かれますが、
 ここでは深入りは避けておきます。

島原鉄道



『鐵道停車場一覽』 大正6年3月31日現在 鐵道院 [1917年]

<https://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/3461950>



時刻表とともに利用者に馴染み深い駅は、本来古代駅制において人馬継ぎ立てを行う施設に対して充てた道路施設の名称で、鉄軌道では「停車場」や「停留場」などが用いられてきました。官報や国鉄の公報などまで遡及調査したデータベースをもとに、石野哲編『停車場変遷大事典 国鉄・JR編』（JTB、一九九八年）が編さんされた現在、もはや原典の「停車場一覽」にあたる必要も減ってきました。

「停車場一覽」は、国鉄につながる前身組織がまとめた要覧にあたり、現存最古の確認例は鉄道博物館所蔵の『通信省公文書』（DVD版、丸善、

二〇一五年）第一五二巻に綴じ込まれた一九〇七年二月現在のようですが、国会図書館は四番目に古い一九一七年三月現在のものを所蔵し、デジタル公開しています。掲載内容は国鉄線に関する停車場の名称、駅間哩程、累計哩程、所在地名、営業開始年月日を本編とし、付属の国鉄線と旅客や貨物の直通運輸契約を結んだ連帯運輸線である民鉄や航路などもカバーしており、実は相当数の民鉄まで守備範囲にしています。国鉄・JRについてはほぼ完璧な『停車場変遷大事典』が編さんされた現在、実はこちらが有用であったりします。

(4) 東京、神戸間				(5) 東京、神戸間			
駅名	種別	累計哩程 東京区(逆方向)	所在地名	種別	累計哩程 東京区(逆方向)	所在地名	営業開始年月日
高塚	普通	5.3 (170.2) 205.2	21. 9. 1.	横濱	普通	3.9 257.3 119.1	30. 8. 1.
舞坂	普通	8.2 173.4 203.0	29. 7. 11.	(大塚)	普通	4.8 262.1 114.3	17. 5. 24.
神代島	普通	1.5 (174.9) 201.5	大正 4. 1. 10.	重井	普通	5.1 267.2 109.7	17. 5. 24.
新居町	普通	1.9 176.8 199.6	21. 9. 1.	龍ヶ原	普通	3.5 270.7 105.7	16. 5. 1.
鷺津	普通	2.3 179.1 197.3	21. 9. 1.	柏原	普通	4.4 275.1 101.3	33. 2. 21.
白須賀	普通	3.1 182.2 194.2	29. 4. 7.	越中島	普通	2.7 277.8 98.6	22. 7. 1.
二川	普通	3.1 183.0 191.1	21. 9. 1.	瀬ヶ井	普通	2.8 280.6 95.8	33. 2. 21.
(豊橋)	普通	4.4 189.7 186.7	21. 9. 1.	(米原)	普通	3.8 284.4 92.0	22. 7. 1.
御油	普通	5.2 194.9 181.2	21. 9. 1.	(彦根)	普通	3.7 288.1 88.3	22. 7. 1.
蒲郡	普通	6.4 200.3 176.1	21. 9. 1.	河原	普通	4.0 292.1 84.3	20. 5. 4.
寺田	普通	4.4 203.1 171.2	41. 9. 11.	能登川	普通	4.6 296.7 79.7	22. 7. 1.
岡崎	普通	4.5 209.6 166.8	21. 9. 1.	安土	普通	3.2 299.9 76.5	大正 3. 4. 25.
安城	普通	4.9 214.5 161.9	24. 6. 16.	八幡	普通	2.2 302.1 74.3	22. 7. 1.
刈谷	普通	5.0 219.5 156.9	21. 9. 1.	野洲	普通	5.9 308.0 68.4	22. 7. 1.
(大府)	普通	3.0 222.5 153.5	20. 9. 10.	守山	普通	2.0 310.0 66.4	45. 4. 16.
大高	普通	4.4 226.9 149.5	19. 3. 1.	(草津)	普通	2.7 312.7 63.7	22. 7. 1.
熱田	普通	4.5 231.4 145.0	19. 3. 1.	×飯川	普通	2.3 315.0 61.4	
(名古屋)	普通	3.2 234.6 141.8	19. 4. 1.	石山	普通	2.5 317.5 58.9	36. 4. 1.
枇杷島	普通	2.5 237.1 139.3	20. 4. 16.	(大津)	普通	1.7 319.2 57.2	大津港開港 13. 7. 15.
稲津	普通	4.4 241.5 134.1	20. 8. 5.	大谷	普通	1.6 321.1 55.3	大谷町 12. 8. 18.
瀬戸一宮	普通	3.6 243.1 131.3	19. 6. 1.	×大塚	普通	1.9 323.0 53.4	
木曾川	普通	3.0 248.7 127.7	20. 4. 15.	山科	普通	1.5 324.5 51.9	京都府守山郡山科村(小野) 12. 8. 18.
岐阜	普通	4.7 253.4 123.0	20. 1. 21.	稲荷	普通	3.0 327.3 48.9	京都府京都市稲荷町(稲荷) 12. 8. 18.

『客車略図 上巻』 鉄道院 編・刊 1911年

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2942239>

そうした鉄道の線路上を走行して旅客や貨物を運んだ車両の記録が「○○略図」と称する図面集ですが、国会図書館デジタルコレクションで見られる客車の図面を例示します。最古の「客車略図」は一八九三年のものが確認され、また『日本鉄道史』が創業期の「最古客車図」を掲げていることも知られてきました（青木栄一「わが国の鉄道における初期の客車の変遷について」『都留文科大学研究紀要』第三号、一九六六年）。

それら先駆作があるとはいえ、本図面集は一九〇六～〇七年の鉄道国有化によって鉄道院の継承したさまざまな客車の図面を、本格的印刷に付した草創期の刊行物として評価され、また復刻もされてきました（丹沢新社、一九七四年）。



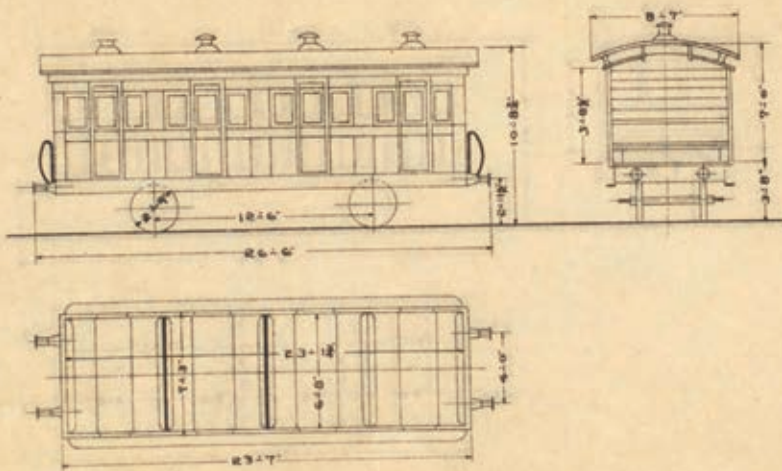
形式稱號 315

一 二 等 車

パーミングハム工場製

記號及番號

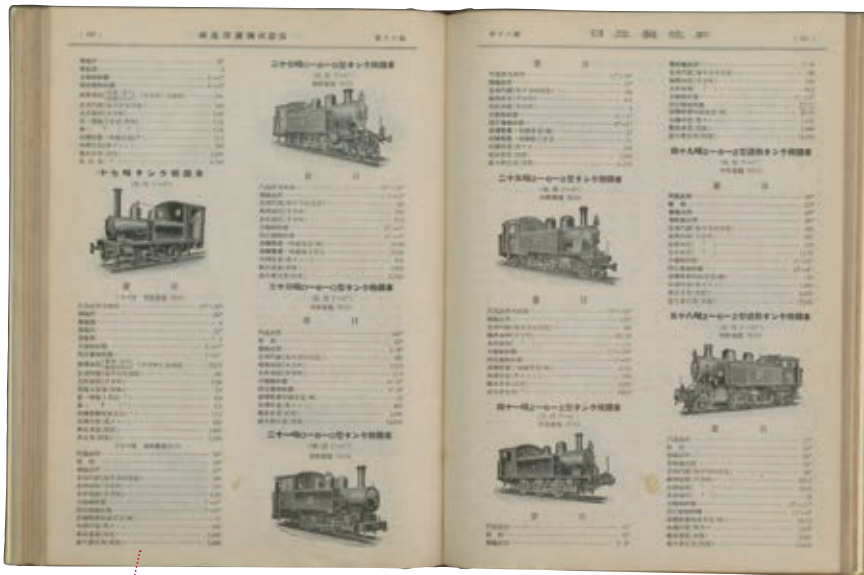
イロ315.



記 事

舊關西53.號

定 員(一等)	6	人	自 重	6.25噸	硝子窓面積	平方呎
(二等)	24	人	緩衝器ノ高(盈)	2'-9 1/2"	燈ノ種類	
面積(一等室)			制動機種類	制動機	車軸寸法	× × ×
(二等室)			窓硝子寸法及數	× ×	バフリンク種類	× × ×
最大長幅高	26'-6" × 8'-7" × 11'-4 1/2"		同 上	× ×	ドローパー種類	



いわば機関車のカタログでページをめくると機関車がたくさん!

十七噸タンク機関車

(純同3~6ヶ)



要 目

2-4-0型 型録番號 38051

汽笛直径及樹程	10"×16"
備輪径	34"
備輪数	4
導輪径	22"
導輪数	2
全輪軸距離	8'~0"
固定輪軸距離	4'~0"
傳熱面積(火室 36.0 烟管295.0) (平方呎) 全面積	331.0
常用汽壓(每平方吋封度)	180
火床面積(平方呎)	6.54
導輪上重量(英噸)	3.9
第一備輪上重量(噸)	6.8
第二 " (噸)	6.5
運轉整備時地重量(噸)	17.2
水槽容量(英ガロン)	400
載炭重量(封度)	1,400
牽引力(封度)	7,200

技術系の話題を承けて、車両の話をつづけます。鉄道車両は自動車と異なる原則としてオーダーメイド生産が中心ですが、地方の中小鉄道には新車の設計を手がける技師を常時雇用できるところが少なく、また頻繁に新車を導入したわけでもないため、それらの需要に応えるべくメーカーがレディーメイド製品を売り込んでいました。

日立製作所といえは電機メーカーの印象が強いです、社業の原点は茨城県の日立鉾山向け機械の修理で、一九二二年には山口県都濃郡下松村の

日本汽船笠戸造船所を継承して鉄道車両製造に乗り出しました。近年では日立笠戸事業所として、鉄道発祥のイギリスに高速鉄道車両を輸出した実績が知られています。その一九二七年の製品カタログには日立製作所のレディーメイドの小型蒸気機関車を掲載しています。

これらの機関車は、地方の中小鉄道用のみならず、産業用機械が充分でなかった当時、製鉄所や工事現場など重量物の構内搬送用などにも使用したことを考えれば、まさに「製品」でした。

『大阪府写真帖』 大阪府 1914年

<https://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/966056> (モノクロ画像)

「撮り鉄」の話題がニュースを賑わす近年では想像できませんが、明治・大正期に鉄道を被写体にした写真は多くありません。写真師として初の帝国技芸員を拝命した小川一真かずま撮影の『日本鉄道紀要』（一八九八年、一九一一年復刻）や、その小川に全国の機関車の撮影を託した作品群の「岩崎・渡辺コレクション」（鉄道博物館所蔵）などが有名です。

まず、わが国においてドイツ製ライカのような携帯に適した感光材のフィルムを用いた写真機が用いられるようになったのは、主に昭和初期以降であり、それまでは組み立て暗箱に感光材もガラス乾版という大装備のため野外撮影自体が容易ではありませんでした。さらに明治末年頃でもシャッタースピードが二五分一秒程度しか出せず、撮影は駅などでの停車中にほぼ限定されていました。

また文明開化の象徴の鉄道を地域の「名勝」として記録する発想も稀薄であったようです。明治末から大正初期に嘉仁皇太子（のち大正天皇）の地方

行啓時には、全国の道府県で記念の名勝写真帖が編さんされましたが、そこにも鉄道の写真は多くありません。

そうした名勝写真帖のなかで『大阪府写真帖』は、バラエティに富んだ題材を編さんした点で群を抜いています。一見鉄道と無関係の「堺市全景」として収録された一枚は、泉北丘陵から高野登山鉄道（現南海電気鉄道高野線）大小路（現堺東）駅を俯瞰し、電化から間もない時期の駅、車庫、そしてそこに休む電車群を記録しています。



「堺市全景」 当時の堺市を俯瞰した写真で、旅客や貨物輸送の要衝となっていた。車庫や停車中の電車までも捉えている。



鉄道 150 年 を知る本

調査の糸口になりそうな文献もさまざまです。

国立国会図書館の蔵書から、そのほんの一端をご紹介します。



『鉄道史人物事典』鉄道史学会（編・発行）日本経済評論社（発売）2013 <請求記号 D2-L10>

鉄道史学会創立 20 周年を記念して編さんされた事典。わが国の鉄道の歴史に深く関わってきた人物の履歴をまとめ、参考文献を付す。



『鉄道史文献目録 私鉄社史・人物史編』鉄道史学会（編・発行）日本経済評論社（発売）1994 <請求記号 D1-E182>

鉄道史学会創立 10 周年を記念して企画された文献目録。鉄道・バス事業者やそれ以外の会社・機関、人物史の構成をとり、末尾に、社史・事業史・人物史・伝記についての詳細な解題を付す。



『日本国有鉄道百年写真史』日本国有鉄道 1972 <請求記号 DK53-41>

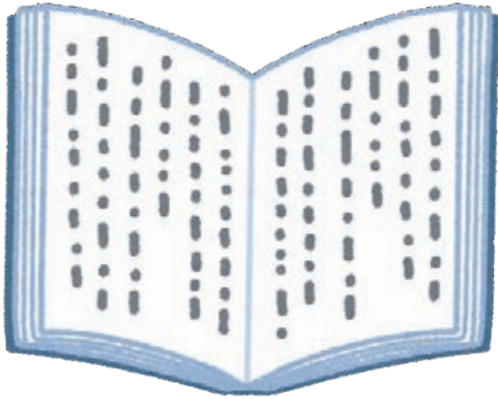
日本国有鉄道創業 100 年を記念して編さんされた写真集。写真に加え、絵画、乗車券、文書記録など鉄道関連資料の図版を多数収録。



『鉄道ピクトリアル』24 (12) (300) 鉄道図書刊行会 1974.12 <請求記号 Z16-498>

文献解題の「鉄道書 300 選」の収録号。

編さん中の本より



鉄道創業から150年を記念して編さんされている図書もある。鉄道史研究者を中心に執筆が進められている『鉄道百五十年史』においては、経営史、技術史に目配りしながら国鉄、民鉄、公鉄（公営鉄道）全般を叙述する「総合鉄道史」が目指されている。事務局は、公益財団法人交通協会が担当。

（参考）原朗「『鉄道百五十年史』の概要と編集状況」『JR gazette』78（1）（847）2020.1 pp.38-42

『鉄道百五十年史』全5巻 資料集1巻（予定）
2023年10月刊行（予定）

調べものに役立つ国立国会図書館（NDL）作成のサイト「リサーチ・ナビ」でも鉄道を調べるための文献や情報源を紹介しています！ リサーチ・ナビとは特定のテーマやトピックの調べものに役立つ資料や調べ方を紹介したサイトです。インターネット上で、自由に読むことができます。

<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/index.html>



NDL ウェブサイト
リサーチ・ナビにも！

The screenshot shows the NDL Research & Navigation website interface. At the top, there are navigation tabs: '主題から調べる' (Search by theme), '資料の種類から調べる' (Search by material type), and 'テーマ別データベース' (Thematic database). The main heading is '鉄道業について調べるには（統計・名鑑・インターネット情報源等）' (How to search for railway industry (statistics, directories, internet information sources, etc.)). Below the heading, there is a sub-heading '2022年10月18日 更新 科学技術・経済情報室 作成' (Updated October 18, 2022, created by the Science, Technology, and Economic Information Room). The text explains that the railway industry is classified under '42 Railway Industry' in the Japanese Standard Industrial Classification. It also provides information on how to search for materials, including a note that the brackets in the search criteria refer to the call number and that the call number varies by edition. A final note mentions that statistics for the railway industry are included in the general statistics on transport.

他にも鉄道、航空、船舶の時刻表の調べ方をまとめた「時刻表」のページもあります。
NDL ウェブサイト リサーチ・ナビ>資料の種類から調べる>時刻表
https://rnavi.ndl.go.jp/jp/timetable/theme_honbun_102066.html

鉄道業について調べるには（統計・名鑑・インターネット情報源等）のページから

～目次～

1. 統計資料、名鑑類、調査・レポート等
2. 専門雑誌・新聞
3. 国立国会図書館オンラインで検索するには
4. インターネット情報源

>主題から調べる

>産業情報ガイド

>サービス業

>鉄道業について調べるには（統計・名鑑・インターネット情報源等）

https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/post_709.html



鉄道が変えたコト・モノ

鉄道開業 150 年を記念し、鉄道が近代の日本に与えた影響を「時間感覚」「産業」「まちづくり」「旅行・観光」の 4 つのテーマで紹介するオンライン展示を公開中です。明治初期に描かれた鉄道の登場する浮世絵、大正・昭和初期の鉄道路線図、時刻表、鉄道旅行ガイド等、鉄道に関する当館所蔵資料の数々を詳しい解説とともに楽しみいただけます。



<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/32/>

先日、JR北海道を最後に、JR全社が普通回数券の販売を終了したと伝えられました。習い事に通うとき、友人と旅行へ行くとき……折々にお世話になった回数券。ふと疑問が浮かびます。

「回数券っていつからあるの？」

科学技術・経済情報室（東京本館）には、日々、利用者からさまざまな調査相談が寄せられます。当室が受けるのは、科学技術や医学、経済、社会、教育に関連したもの。冒頭の、鉄道の回数券にまつわる問いも当室の守備範囲です。私たち職員は、利用者が目的の情報にたどり着けるよう、カウンターで、電話で、文書で、お手伝いをしています。さて、回数券制度のはじまりを知るためには、どんな資料があるのでしょうか。

まず、国立国会図書館が提供する、調べもの役に立つ情報をまとめたコンテンツ「リサーチ・ナビ」の「鉄道業について調べるには」をチェック。鉄道について調べるのに有用な資料が紹介されているのです。そのひとつ、『日本の鉄道（「知」のナビ事典）』は鉄道の事典ということで参考になりそう。現物を見て内容を確認します。——「切符・乗車券」の項に、切符について調べるための

図書がリストアップされていました。この中の『国鉄乗車券類大事典』なんてよいのでは。あ、ちょうど同じ棚にあります。目次を見ると「回数乗車券の歴史」という見出し。これは期待が持てる！……と、こんなふうに行き着けばよいのですが、そううまく運ばないのが現実です。質問を受けるたび、おたずねの情報がどんな資料に載っているのか、載っている資料はそもそも存在するのか、定かでないまま探すことの難しさを感じます。それでも探しあて、利用者を紹介するところまでこぎ着けたとき、その資料に光を当てることができたような気がしてうれしくなります。

ときどき、書架に並ぶ資料を眺めながら、このうちのどれくらいがその存在を知られているのだろうかと考えます。知られていなかったがゆえに、利用される機会を逸した資料があるかもしれない、とも。資料はいつも、利用されるか否かの分岐点にあります。必要とする誰かがあらわれて、出番がめぐってきたときに、その分岐点に立ち会い、資料が活きる道を選ぶように。そんなことを思いながら、知識を蓄え、経験を重ねる毎日です。

（科学技術・経済課 滑空モモンガ）

分岐点にて



読書が変わる？ 国立国会図書館の新たなサービス

“ 個人送信 ” Q & A

古い本を読むとき、どんな方法を取っていますか？ 近くの図書館で借りる、古書店で買うなど、さまざまな選択肢から、その都度目的に合った方法を選ばれていると思います。

国立国会図書館（NDL）が2022年5月19日に開始した「個人向けデジタル化資料送信サービス」（略称：個人送信）によって、より効率的に読書や調べものができるようになりました。今までインターネット上で公開されていた資料57万点に加えて、絶版等の理由で入手が困難になった資料（絶版等資料）152万点についても、ご自分の端末からアクセスできるようになったからです。

もっとも、始まったばかりのサービスのため、利用手順に分かりにくい点もあるかもしれません。この記事では、利用者の皆さんから実際にいただいた質問をもとに、よくある10の質問に答えます。

アクセスしてみよう！



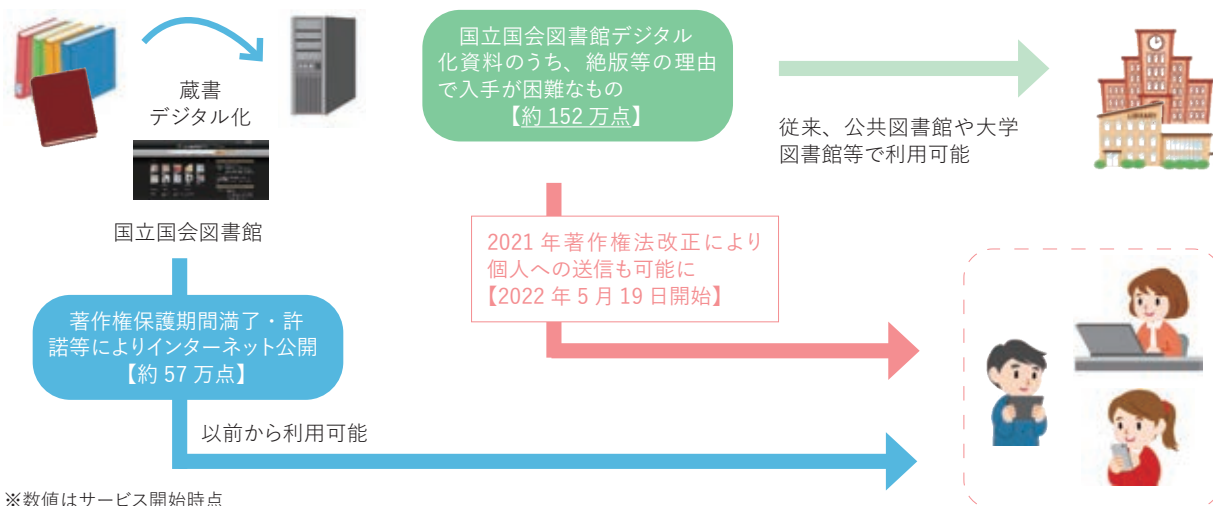
個人向けデジタル化資料送信サービス（略称：個人送信）とは？

個人送信とは？

国立国会図書館のデジタル化済の資料のうち絶版等の理由で入手が困難になった資料を、インターネットを通じてご自身の端末（パソコン、タブレット）等でご覧いただける新たなサービスです。

開始の背景

コロナ禍において、デジタル化された資料の活用への要望が高まったことを受け、2021年の著作権法の改正により、2022年5月19日から開始されました*。
*「国立国会図書館のデジタル化資料の個人送信に関する合意文書」（2021年12月3日）に基づいて開始





Q1 誰でも使えますか？

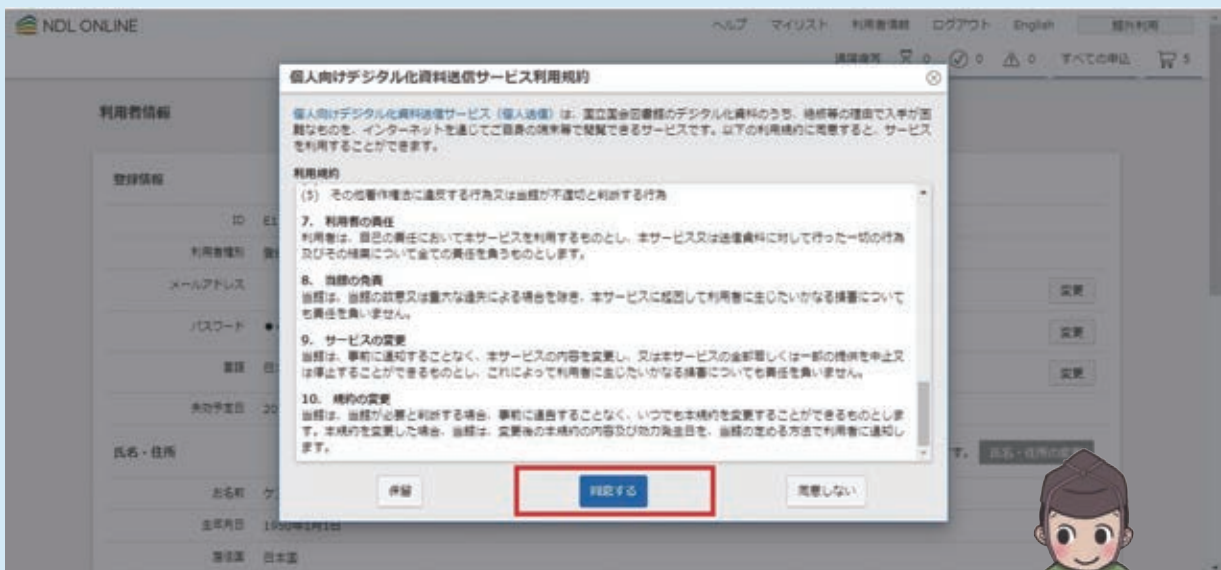
A 日本国内居住の登録利用者（本登録）であればご自分の端末からアクセスできます。

Q2 どうやったら使えますか？

A 登録利用者（本登録）はウェブサイト（国立国会図書館オンライン）上で利用規約に同意した上で、国立国会図書館デジタルコレクション上で使えます。
<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>

登録利用者（本登録）以外の方は、まずは、登録をお願いします。
https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html#registration

利用規約への同意



- ①利用者 ID・PW を入力して国立国会図書館オンラインにログインする。
- ②最新の利用規約が自動表示される。
- ③内容を確認し、画面下部に表示される「同意する」ボタンを押してください。
詳しくは以下のページをご覧ください。
https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html



Q3 どんな資料を見ることができますか？

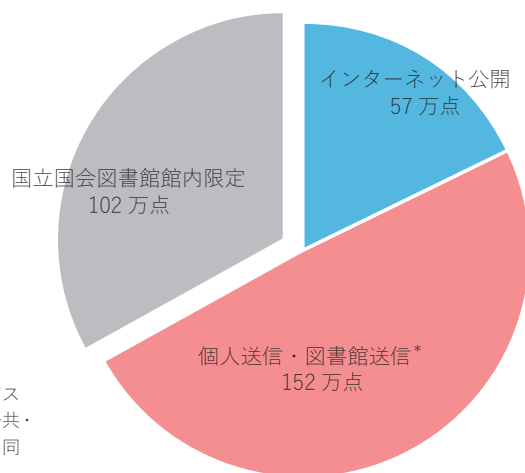
A 約 152 万点に及ぶ絶版等資料です。
1968 年までに受け入れた図書等 55 万点、雑誌
(刊行後 5 年以上経過、商業出版されていない
もの) 82 万点などです。

152 万点も！？



デジタル化資料提供状況

(2022 年 8 月時点)



* 図書館送信：
図書館向けデジタル化資料送信サービスの略称。同サービスに参加している公共・
大学図書館等の館内でも、個人送信と同じ範囲の資料を閲覧可能。

多くの資料が各自の端末で
見られるようになりました



Q4 資料を見るのに料金はかかりますか？

A 無料です。ただし、事前に国立国会図書館の利用者
登録（本登録）をしていただく必要があります。

Q5 画像が見られるのは、国内居住者ですか？

A はい。個人送信の対象画像は、日本国内居住の登録利用者
(本登録) であれば見られます。

Q6 タブレットやスマートフォンでも表示できますか？

A 表示できます。ただし、パソコンのように画面が大きい端末での利用がおすすめです。

Q7 他の人が利用している資料に同時にアクセスできますか？

A 同時閲覧数は制限していないので、複数の方が同じ資料に同時にアクセスできます。



Q8 個人送信の開始によって、例えばどんな資料が見られるようになったのですか？

A デジタル化されていたが著作権が切れていない図書や、商用ではない雑誌などが新たに見られるようになったジャンルです。

こんな資料も見られます



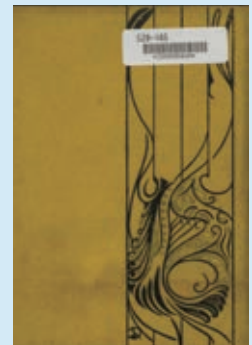
竹久夢二著『思い出ぐさ』
竜星閣 1967<請求記号
726.5-Ta496o>



『鐘詰時報』24巻4号通
号269号 日本鐘詰協会
1945.10<請求記号Z17-
405>



『書窓』1巻1号 日本愛書
会書窓発行所 1935.4<請
求記号Z21-163>



西村真次著『鳴く虫の観察』
弥円書房 1924<請求記号
528-165>

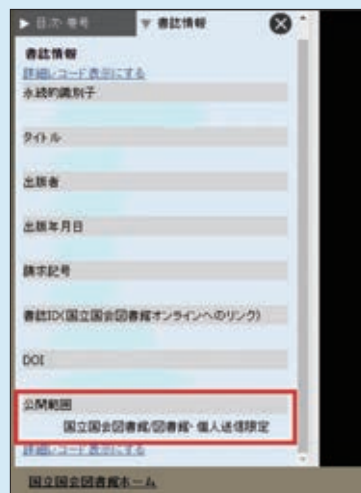
Q9 本文画像のスクリーンショットを取っても良いですか？

A 著作権法 31 条 5 項 1 号では、本文画像の複製については自己利用の範囲内において認められています。なお、スクリーンショットで作成した本文画像をメールで送信する行為や、ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) などにアップロードする行為は法令違反に該当する可能性があることから利用規約 6(1) において注意喚起を行っています。

個人送信対象資料の見分け方



検索結果一覧画面



コンテンツ閲覧画面



今年の 12 月には国立国会図書館デジタルコレクションがリニューアルするよ

Q10 自宅や職場のプリンターで印刷はできますか？

A 現在は資料を見ることのみ可能です。2023 年 1 月にはプリントアウト機能の追加を目指しています。

もうすぐ開始です！



本屋に

ない

本



竹紙の現在と文化財修理

国宝修理装演師連盟 編・刊
2021.3
62 p ; 30 cm + DVD-Video 1 枚 (12 cm)
<請求記号 YU17-M263>

竹を使用した独特な風合いの表紙に、竹紙の製造過程を示す絵が印刷されている。この表紙絵は、中国、明代の産業技術書『天工開物』の中で、竹紙製作技術に言及されている箇所挿図である。

本書は、中国と日本における竹紙の歴史と最新の情報を文化財修理の観点から取り上げている。コラムとして、文化財修理の事例報告が収録され、さらに、様々な竹紙のサンプルや、中国での現地調査記録のDVDも付属しており、盛りだくさん内容となっている。和紙の原料は、楮シズカなどの樹皮繊維が主だが、中国では古くから竹繊維が紙の主原料として用いられた。竹紙を料紙とする書画類、典籍が中国から日本

に数多く伝来し、竹紙自体も輸入された。文化財の修理にあたっては、補修用の竹紙を確保し、竹紙の原材料や製造過程を知ることが不可欠である。日本の和紙生産と同様に、中国でも、竹紙生産は存亡の危機にさらされており、伝統的な手法で高品質の竹紙を製作する生産者は、20世紀末頃から急激に減少しているという。一方で、国の支援を受け、文化財修理に用いる竹紙の復元が複数の工房で行われ、現地の修理技術者との連携も模索されているという。明るい話題も提供されている。

資料保存に携わる自らの業務でも、ある特定の和紙や筆などをも入手できないと耳にすることがある。中国の事例は、原材料・用具の確保の問題を解決するためのひとつの手掛かりとなるかもしれない。

付属のDVDでは、『天工開物』での製法に準じた、伝統的な竹紙製作の様子を見ることが出来る。紙を漉く簀すいに漆が塗られているのは日本のものと異なる特徴であり、防腐効果と表面を滑らかにする効果があるという。製紙工程には地域差がみられ、例えば、竹の処理過程での尿かけや日晒ひびし、ネリねり（紙漉きのために紙料に混ぜる植物粘液。紙の繊維を均等に分散させ、漂い浮かばせる働きをする）の有無といった違いが興味深い。

大きな窯に竹束をみっしりと隙間なく詰めて蒸す様子も、紙を漉き、温めた壁に張り付けて乾燥させる様子も、

『天工開物』に記された絵と重なる。湿った大判の紙を、一枚ずつ手に取って、しわにならないよう刷毛でのぼしながら数秒で壁に張り付けていく。熟練の技術が長い年月継承されてきたことに感動を覚える。

本書は、コロナ禍で中止を余儀なくされた一般社団法人国宝修理装演師連盟の定期研修会の開催に代えて出版されたものである。そのため、竹紙の特徴、製造過程、修理記録等が、具体的な数値等とともに詳細にまとめられ、専門的な資料であるが、軽妙な文体の論文もあり、写真、DVDも付いているので、専門家でなくとも、文化財や製紙に興味がある人にとって、楽しく参考になるだろう。（吉井 伶奈）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

あの人蔵書

中西文庫

吉原努

中西寅雄の履歴

中西寅雄（1896-1975）は和歌山県出身。大正9（1920）年東京帝国大学経済学部商業学科卒業、助教を経て大正12（1923）年から約3年間ドイツに留学し、経営学（Betriebswirtschaftslehre）を学びました。

教授就任後の昭和6（1931）年、主著『経営経済学』を出版し、マルクス経済学に影響を受けた個別資本説の提唱によって、当時の学界に影響を与えました。

東京帝国大学学長による教授への処分（平賀肅学）に抗議するため、中西は昭和14（1939）年に複数の教授とともに辞表を提出して辞職しました。

陸軍、企画院、経済安定本部、大蔵省で原価計算基準の策定に携わり、

企業会計制度対策調査会が昭和24（1949）年に公表した「企業会計原則」と関連する「原価計算基準」の原案作成にも携わりました。日本生産性本部理事、大阪大学教授、慶応義塾大学教授も歴任しています。

愛煙家で、約2時間の会議後、灰皿に21本の吸い殻があったというエピソードが残っています。

中西文庫の形成

中西の留学時期（1923-1926）は、関東大震災後の東京帝国大学図書館の再建期と重なっていました。東京帝国大学経済学部では、上野道輔教授を中心に外国での資料購入が進められ、中西はその補助にあたりました。第一次世界大戦後の混乱期、ドイツ・マルクの暴落もあって、経済学及び

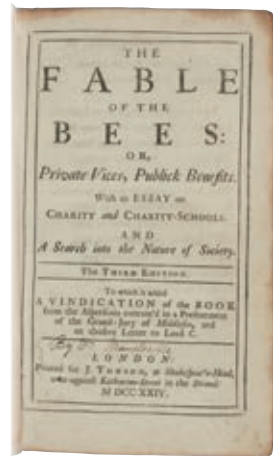
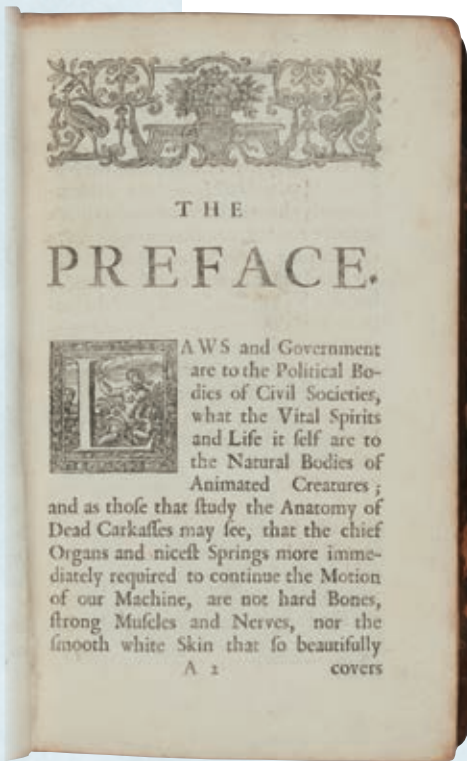
経営学の文献を集めています。その折に、中西は個人用としても図書を求めたと推測されます。

中西文庫の概要

第二次世界大戦直後に国立国会図書館の設立に先立って購入されたもので、洋書約2,000冊、和書約1,000冊といわれています。マルクス経済学の隆盛を反映した図書、学者同士で著作を贈呈した結果集められた図書を含みます。



■ Bernard Mandeville, *The fable of the bees: or, private vices, publick benefits*. The third edition, London: Printed for J. Tonson[etc.], 1724 < 請求記号 827.53-M272f >

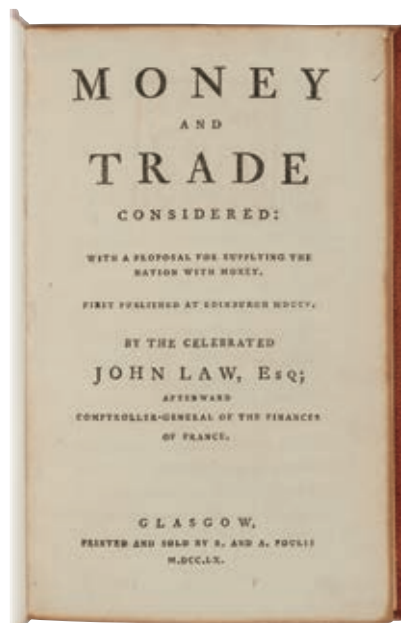


標題紙 (上) と冒頭 (左)

『蜂の寓話』の邦題で知られる一書。オランダに生まれ、イギリスで活躍した医師、文筆家 B. マンデヴィル (1670-1733) の著作の第3版 (初版 1714)。個人の利益追求が社会をも潤す (副題にある「私的悪徳が公益につながる」という思想はスミス、ケインズに影響を与えたとされます。

■ John Law, *Money and trade considered: with a proposal for supplying the nation with money*. First published at Edinburgh MDCCV, Glasgow, Printed and sold by R. and A. Foulis, 1760 < 請求記号 332.4942-L415m >

スコットランドの財政家 J. ロー (1671-1729) の代表作『貨幣貿易論』の第2版 (初版 1705)。著者は豊富な貨幣供給こそが経済発展を導くとの主張のもと、フランスの銀行家となりましたが、銀行券の過剰発券による混乱を招き、失脚しました。



金色で美しく縁どられた表紙



■ Karl Marx, *Das Kapital: Kritik der politischen Ökonomie. 1. Bd. Buch I: Der Produktionsprozess des Kapitals*. Hamburg : O. Meissner, New-York : L. W. Schmidt, 1867< 請求記号 330.1-M392k>



K. マルクス（1818-1883）の代表的な著作『資本論』の初版。近代ヨーロッパにおける資本主義経済から、物の価値や労働者と資本家の関係の分析を行いました。

初版の背表紙

■ 『マルクス全集』第1冊 資本論 第1巻第1冊 高島素之訳 大鐙閣 1920
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2127492>
 (モノクロ画像)

『資本論』の邦訳は向坂逸郎訳が出版されるまで、高島素之訳が大正時代から昭和前期にかけて普及しました。第4版までの序文と、本文第9章までが訳されています。（以下、第3冊で完結。）新潮社版、円本ブームで出版された改造社版などの各種の邦訳が出版されました。中西寅雄が使用した蔵書印が遊び紙に押印してあります。



■ Frederick Winslow Taylor, *The principles of scientific management*. New York and London : Harper & Brothers, 1919< 請求記号 658-T241p>

アメリカの経営学者、F. テイラー（1856-1915）の代表作、『科学的管理法』。著者は工場で労働者を監督した経験から、作業時間の管理と工具の統一、出来高払い賃金が生産力の向上に有効なことを示しました。中西寅雄は、「近世技術の進化に於けるテイラーシステムの意義」という論文を執筆しました。



表紙に描かれた模様

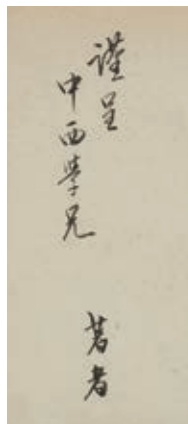


■ Heinrich Nicklisch, *Wirtschaftliche Betriebslehre*. 5. Aufl. der Allgemeinen kaufmännischen Betriebslehre, Stuttgart : C.E. Poeschel, 1922< 請求記号 650.1-N632w>

ドイツの経営学者、H. ニックリッシュ (1876-1946) の代表作。その後提唱した独自の経営共同体論を反映し、経営成果という概念を生み出しました。中西寅雄が使用した蔵書印と署名の両方があります。

■ 『経営経済学序論』
増地庸治郎 著 同文館 1926
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2388078> (モノクロ画像)

ドイツの経営学者、H. ニックリッシュ (1876-1946) に学んだ経営学者による経営学史の一冊です。「謹呈中西学兄」の献辞が遊び紙にあります。



■参考文献 (<> 内は当館請求記号)

- 老川茂信 著『独逸貨幣没落物語』万里閣 1931 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1280142>
「資本論」の初版本『国立国会図書館月報』46号 1965.1 p.9<Z21-146>
庄野新「国立国会図書館の洋書 その成り立ちのあらまし」『国立国会図書館月報』300号 1986.3 pp.2-13<Z21-146>
鈴木鴻一郎『「資本論」(第一巻)の初版本と日本』『図書』217号 1967.9 pp.6-9<Z21-184>
「中西寅雄博士履歴及び研究歴」、森五郎「中西寅雄先生を偲ぶ」『三田商学研究』13巻2号 1970.6 pp.1-5, 221-222<Z3-296>
宇野弘蔵 著『資本論に学ぶ』東京大学出版会 1975<DA24-102>
『東京大学経済学部五十年史』東京大学出版会 1976<FB22-435>
『中西寅雄経営経済学論文選集』千倉書房 1980<DH3-276>
大村泉「日本における『資本論』第1巻初版(1867)オリジナル刊本の蒐集と1920年代のマルクスブーム」『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』60・61号 2019.6 pp.39-56<Z3-2376>
『第1回国会衆議院委員会議録』昭和22年10月3日、昭和22年10月10日 国会会議録検索システム <https://kokkai.ndl.go.jp/#/>

■資料の利用について

目録はなく、東京本館(図書別室)と関西館に分散配置しています。

■肖像の出典

黒沢清・柳川昇 編『原価及び原価管理の理論 中西寅雄先生還暦記念論文集』森山書店 1959<335.96-Ku919g>

※ URL の最終アクセス日: 2022年9月20日

※背景の出典: Paper-co <https://free-paper-texture.com/blue-marble-texture/>

NDL Topics

世界図書館・情報会議（国際図書館連盟（IFLA）年次大会）について（令和4年7月26日～29日）

近年のIFLA年次大会は、大会が中止されたり（令和2年）、全てのプログラムがオンラインで開催されたり（令和3年）しましたが、令和4年は、3年ぶりにダブリン（アイルランド）にて集合形式で開催され、96の国と地域から約1,900人が参加しました。期間中は、分科会等による多数の公開セッションのほか、関連企業等が出展する展示会や、ポスターセッション等が行われました。また、例年、年次大会に合わせて開催される国立図書館長会議（CDNL）も、7月27日に集合形式で開催されました。

今年は、一部のセッションを除き、オンライン参加の募集はありませんでした。世界的に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束していない状況も鑑み、国立国会図書館からの参加は見送りしました。

IFLAのガバナンスにおける最高機関である総会は、年次大会後の8月25日に、集合とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。会長報告、年次報告、会計報告等の後に予め提出された議題に対し活発な議論が行われました。当館からもオンラインで参加し、提出された動議について投票を行いました。

次回の年次大会は、令和5年8月21日～25日にロッテルダム（オランダ）で開催予定です。

韓国国立中央図書館とのオンライン業務交流

令和4年9月21日に韓国国立中央図書館（NLK）との業務交流をオンライン形式で実施しました。

前半では、基調報告として、両館の現況と課題について双方から報告し、質疑を行いました。後半では、「国立図書館によるキュレーションと情報発信」をテーマとして、NLKは、各種オンライン資料の収集・サービス状況や、著作権調査及び権利者不明著作物の発掘を中心に、オンライン資料の遠隔サービス活性化に向けた取組について報告しました。当館は、電子展示会におけるデジタルシフトの取組について、「NDLイメーজバンク」や「ジャパンサーチ」を具体例として、キュレーションと情報発信の視点から報告しました。その後、質疑を行い、両館の今後の課題や展望に関する活発な意見交換を行いました。



新刊案内

レファレンス 862号

陸上自衛隊の改編をめぐる動向―南西諸島防衛問題との関連を中心に―

解雇無効時の金銭救済制度

地方税の徴収をめぐる現状と課題―地方税の徴収率を規定する要因は何か―

主要諸外国の上院議員の選出方法―地域代表と一票の格差をめぐって―（資料）



A4 110頁 月刊 1,100円（税込）
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

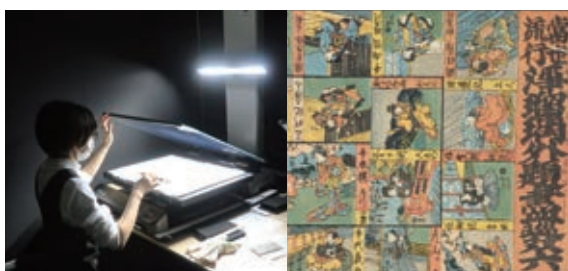
電話 03(3523)0812

国立国会図書館月報

年間索引

一般記事

数字で見る国立国会図書館：『国立国会図書館年報 令和2年度』から	1	31-34
電子資料の長期保存ABC：そのディスク、まだ読めますか？ (木下 貴文)	2	19-23
ミニ電子展示「本の万華鏡」第30回 天下タイ平：魚と人の江戸時代	2	28-29
IFLA年次大会	3	22
『在伯日本移民歴史調査記録』：ガラス乾板のデジタル化 (藤原 夏人)	4	12-15
電子展示会「近代日本人の肖像」	4	20-23
大公開！ 国立国会図書館での資料のデジタル化事業	5	6-15
国立国会図書館が赤坂離宮にあった頃	6	4-12
ミニ電子展示「本の万華鏡」第31回 成人の儀式：古代から近世まで	6	24-25
第57回貴重書等指定委員会報告：新たな貴重書のご紹介	7/8	6-17
NDLイメージバンク	7/8	18-19
学研都市の思い出 (森見 登美彦)	9/10	4-9
特集 関西館20周年	9/10	10-21
変化でひもとく関西館の20年	9/10	12-15
座談会 関西館よもやま話	9/10	16-21
地図で見る関西館：けいはんな学研都市のいまむかし	9/10	22-26
国立国会図書館関西館開館20周年記念 第30回関西館資料展示 巨大書庫には何がある？：関西館資料展示を振り返る	9/10	32-33
憲政資料室の新規公開資料から	11	6-14
蔵書の新たな探索方法を創る：NDLのOCRテキスト化	11	15-19
スペイン語でつながる子どもの本：スペインと中南米から	11	20-26
特別企画 鉄道150年 国立国会図書館の鉄道関係資料	12	5-18
国立国会図書館資料にみる鉄道関係資料：鉄道を調べる (三木 理史)	12	6-15
鉄道150年を知る本	12	16-17
ミニ電子展示「本の万華鏡」第32回 鉄道が変えたコト・モノ	12	18
読書が変わる？ 国立国会図書館の新たなサービス “個人送信”Q&A	12	20-24



凡例

憲政資料室の新規公開資料から	11	6-14
記事タイトル	掲載号(月)	掲載ページ数

今月の一冊

「完全なブックマン」による東洋の手漉製紙の研究：Old papermaking in China and Japan (金森 健太郎)	1	3-7
INAKA：山と遊んだ居留外国人たち (益本 禎朗)	2	1-5
『小公子』：深く幼子を愛し、其恩を思ふ (山崎 優里亜)	3	1-4
『花隠桜花帖』：「三熊派」広瀬花隠の桜たち (石田 暁子)	4	1-5
Tales of mystery and imagination：神秘と幻想の物語 (井田 敦彦)	5	1-5
『リーナーハルトとゲルトルート』小説に描かれた理想像：家族、国家、そして教育 (三浦 啓)	6	1-3
「現代本邦築城史」第二部第一巻から：東京湾に建設された海堡 (富田 穰治)	7/8	1-5
『日本昆虫大図鑑』：昆虫の探求 (小針 泰介)	9/10	1-3
「百鳥図」：雪斎の画、ほとんど諸侯の技量に非ざるなり (武田 和也)	11	1-5
『処世秘訣集』：90年前のライフハックは、今でも通用する？ (児玉 安奈)	12	1-4

本の森を歩く

(第26回) 館長 吉永元信と読む浄瑠璃本の世界 (吉永 元信)	1	8-17
(第27回) 明治・大正の園芸雑誌と近代園芸の啓蒙者たち (中嶋 恵子)	2	6-17
(第28回) 日本美術に魅せられた二人の英国人 (瀧澤 和子)	3	10-17

世界図書館紀行

ロンドンの図書館 (田幡 琢磨)	7/8	20-25
------------------	-----	-------

日本図書館紀行

東京都立中央図書館 (夏目 雅之)	3	5-9
-------------------	---	-----

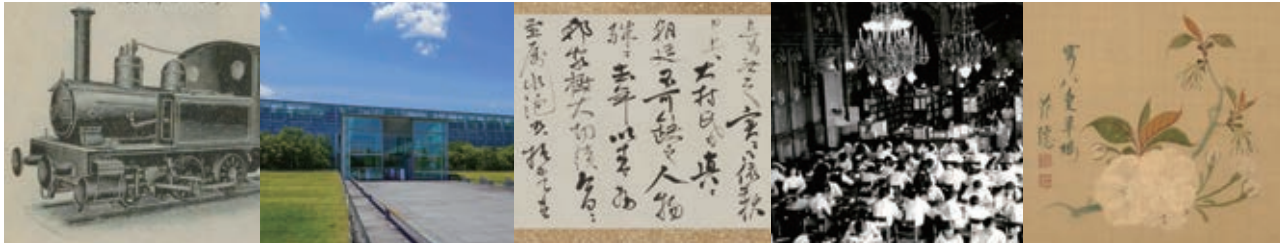
国立国会図書館で働いています
Season2

(no.4) 柴田 洋子 収集書誌部 収集・書誌調整課 収集企画係長	1	26-29
(no.5) 服部 菜都子 利用者サービス部 複写課 遠隔複写係	2	24-27
(no.6) 山田 真理 利用者サービス部 サービス運営課 総合案内係	3	18-20
(no.7) 福林 靖博 電子情報部 電子情報企画課 課長補佐	4	16-19
(no.8) 池田 大希 電子情報部 システム基盤課 業務システム運用係長	5	32-35
(no.9) 中島 美奈 国際子ども図書館 資料情報課 展示係長	6	20-23
(no.10) (終) 岡本 常将 関西館 電子図書館課 課長補佐	9/10	28-31

資料の世界の歩き方
写真を読む

(第4回) 新聞写真の歴史と背景 (葦名 ふみ)	5	17-30
--------------------------	---	-------





本をまもる 保存・修復の道具

③プレスする	1	18-24
④調べる	4	6-11

あの人の蔵書

(第6回) 旧蔵者は誰?! 松平慶民の蔵書	(曾木 颯太郎)	6	14-19
(第7回) 中西文庫	(吉原 努)	12	26-29

本屋にない本

全国出版協会70年史：1949-2019	(千歳 誠之)	2	30
知らない地球がここにある：神奈川県立生命の星・地球博物館紹介映像	(後藤 茉莉)	3	21
和歌山県人ブラジル移住100周年記念誌	(岩下 詩帆)	4	25
東北方言オノマトベ（擬音語・擬態語）用例集：青森県・岩手県・宮城県・福島県	(伊藤 響)	5	31
ミャンマーの木造建築文化	(杉野 晟也)	6	26
日本酒類販売70年史：1949-2019	(諸橋 邦彦)	7/8	27
ミュオグラフィ：21世紀の透視図法	(田中 耀子)	9/10	34
東アフリカ・インド洋島嶼地域ザンジバルにおけるダガー漁と人々の暮らし	(宇野 亮一)	11	28
竹紙の現在と文化財修理	(吉井 伶奈)	12	25

館内スコープ

黒子ときどき夜当番		2	18
コンテンツもひとつなぎます		3	23
「極秘」の任務？		4	24
「デジタル化への旅支度」		5	16
オンライン研修までの道のり		6	13
地図よ、人の営みよ、永遠なれ		7/8	26
表紙は雑誌の顔です		9/10	27
支部図書館職員研修への道のり		11	27
分岐点にて		12	19



バックナンバーは
PDFでもよめるよ



<https://www.ndl.go.jp/jp/publication/geppo/>

冊子版のご購入については、公益社団法人日本図書館協会へお問い合わせください。バックナンバーも取り扱っています。
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812(販売)

12

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.12

NO.740

DECEMBER
2022

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Shosei hiketsushu: Are lifehacks from 90 years ago still useful today?
- 05 Special feature: The 150th anniversary of railways in Japan
—Materials about railways at the NDL
- 06 Researching materials about railways at the NDL MIKI Masafumi
- 16 Books to learn about the 150-year history of Japanese railways
- 18 Kaleidoscope of books (32)
How railways changed the way we live
- 20 Q&A about the Digitized Contents Transmission Service for Individuals:
Changing the way we read
- 26 The Personal Libraries of Well-Known People (7)
The NAKANISHI Collection
- 19 <Tidbits of information on NDL>
At a crossroads
- 25 <Books not commercially available>
Chikushi no genzai to bunkazai shuri
- 30 <NDL Topics>
- 31 Annual index to the National Diet Library Monthly Bulletin, Nos. 729-740

国立国会図書館月報

令和4年12月号 (No.740)

令和4年12月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 松浦 茂

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.12

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図
書

国
人

国
士